

## ◆ 令和6年3月 定例会 川本伸議員 代表質問 ◆

2月27日の3月定例会にて、令和6年度予算ならびに施政方針について、会派の代表質問を行いました。3年余りにわたったコロナ禍を乗り越え、経済状況も少しずつ改善されようとしている中、市長はアフターコロナに向けた飛躍を意識した意欲的な予算を目指していましたが、元日に発生した能登半島地震の惨状を目の当たりにし、急遽予算の見直しがなされました。

そのことにより、今回の代表質問は、大きく10項目の中から「市民の命を守る」また「一人一人に寄り添う政策」という視点を重点的に質問を行いました。



- |  |                             |
|--|-----------------------------|
| ① 令和6年度予算について                                  | ⑥ 高齢者施策について(高齢者のフレイル、認知症施策) |
| ② 施政方針について                                     | ⑦ 放課後等デイサービスの支援の質について       |
| ③ 防災について(個別避難計画、トイレトレーラー、衛星ブロードバンドサービスの導入)     | ⑧ 電動車に関する施策について             |
| ④ 各種ワクチン接種について(帯状疱疹ワクチン、RSウイルス感染症ワクチン、HPVワクチン) | ⑨ 営農支援について                  |
| ⑤ バリアフリー推進について                                 | ⑩ 行政のDX推進における郵送費の節約について     |

### 個別避難計画について

問 一人で避難が厳しい方が、「避難する時の支援者」、「避難先」、「避難経路」などを含む避難行動等をまとめた計画書のことが、市長は個別避難計画作成についてどのように考えているか。

答 災害時にとり残されることがないようにするためには、一人一人避難の計画をたてることは大変重要であり、早急に着手すべき課題だと考える。

### 衛星ブロードバンドサービスの導入について

問 衛星ブロードバンドサービス「スターリンク」は、衛星を使って通信網を構築した衛星通信サービスで、地上で災害が起きてもインターネットにアクセスできるメリットがあるため、導入してはどうか。

答 災害時用のために様々な通信手段を確保しているが、基地局が被害を受けた場合、使用できないデメリットがある。その点、衛星ブロードバンドサービスは、基地局を必要とせず通信が確保できるため、他都市の先進事例を調査・研究をし検討を進めていく。

### バリアフリー推進について

問 病院や公共施設等の進入動線上の歩道に、視覚障害者誘導ブロックの整備の推進を検討していただきたい。

答 視覚障害のある方を、公共施設等へ誘導するブロック等も必要と感じている。国からの交付金などの予算措置を研究し、病院や公共施設への動線の整備を検討していく。

### アフターコロナのフレイルからの脱却について

問 コロナ禍前から実施している「フレイル予防事業」について、「アフターコロナのフレイル」からの脱却の視点で、リニューアルするという点について、どのように考えているか。

答 アフターコロナ対策は重要だと考え、疾病予防と介護予防の両面からアプローチが必要と感じている。令和4年度に2地区で開始した、後期高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的な実施を、令和6年度からは全市で展開していく。

### アフターコロナの認知症施策について

問 全市的な「アフターコロナの認知症施策を講じる」ことについて、どのように考えているか。

答 今年1月に、共生社会実現を推進する「認知症基本法」が施行された。アフターコロナの今だからこそ、認知症共生社会の実現に向けた機運が全国的に高まっているため、本市においても、この機運の高まりを生かし、認知症施策を総合的かつ計画的に推進していく。

### 放課後等デイサービスの支援の質について

問 事業数の増加とともに、課題解決への指導や職員の質の向上に努めることができるよう、検討していただきたい。

答 事業所の役割と保護者との関わりを記載したガイドラインを作成し、一定の水準のサービスを保つことができるような取り組みを始めている。また、専門分野での研修の実施とともに、事業所や保護者の声を聞きながら、支援の質の向上に向けて取り組んでいく。

### (仮称)都市農業支援センター設置について

問 よこすか葉山農業協同組合長井支店の跡地活用について、新規就農希望者や既存の農業者への相談対応をワンストップで受けられる総合的な窓口としてのセンターを設置していただきたい。

答 ワンストップの総合相談窓口の必要性についても、議論をしている。また長井支店跡地は有力な跡地と考えているが、まずは場所を含めて早急に議論を取りまとめていく。

## 公明党横須賀市議団ニュース Vol.80

# KOMEI YOKOSUKA



横須賀市議会議員

つちだ 土田ひろのぶ

●市議団 団長 ●総務常任委員会 委員 ●政策検討会議 委員 ●広報広聴会議 委員

昨年  
10月  
から

## 小児医療費無償化(入院通院、所得制限なし、自己負担なし)が18歳まで実現！

一昨年9月の一般質問で公明党市議団として、「高校3年生(18歳)までの無償化を目指して、子どもの医療費助成を拡大すべき」と提案。

市長からは、「小児医療費助成は、全国どこの市町村に居住していても公平に受けられるべきもので、ナショナルミニマムを基本とした国の制度設計に基づいて実施されるべき施策」「是非、公明党のお力をお貸しいただきたい」との答弁を頂いておりました。

早速、公明党のネットワークを活用し、亀井たかつぐ県議と連携し要望を続ける中、県が補助対象年齢を「小学校6年」まで引き上げ、上地横須賀市長の決断で実現しました。



## 昨年上地市長に政策提言や物価高騰対策緊急要望を提出！

昨年10月2日、公明党市議団として「政策提言2024～支えあい、安心と活力ある社会へ～」重点7項目部局別342項目(新規58項目)を上地市長へ令和6年度予算要望として提出しました。これは各議員が対応した市民相談や議会での「代表質問」「一般質問」、夏に行った「政策懇談会」で様々な団体の皆様のご意見ご要望を元に『小さな声を聞く力』を持って作り上げたものです。

また、昨年11月27日、第3回目となる物価高騰対策緊急要望を公明党横須賀市議団として上地市長に提出し、市長からは前向きな言葉を頂きました。

政策提言の  
詳しい内容は  
こちら→



物価高騰対策など公明党市議団の要望が令和6年度予算で実現しました。詳細は見開き2,3面をご覧ください！→

## いじめストップ!! ピンクシャツデー



公明党市議団は、一昨年2月にそれまで小規模で行われていたピンクシャツデーを全市的な運動にすべきと部局へ提案をスタート。その年の9月の一般質問にて議会でピンクシャツデーを取り上げました。

毎月最終水曜日にピンクシャツデーを行う全国的にめずらしい全市的な運動に発展し、横須賀オリジナルのTシャツも実現いたしました。今後も「いじめストップ」の運動を継続して参ります！